

414
A 2588



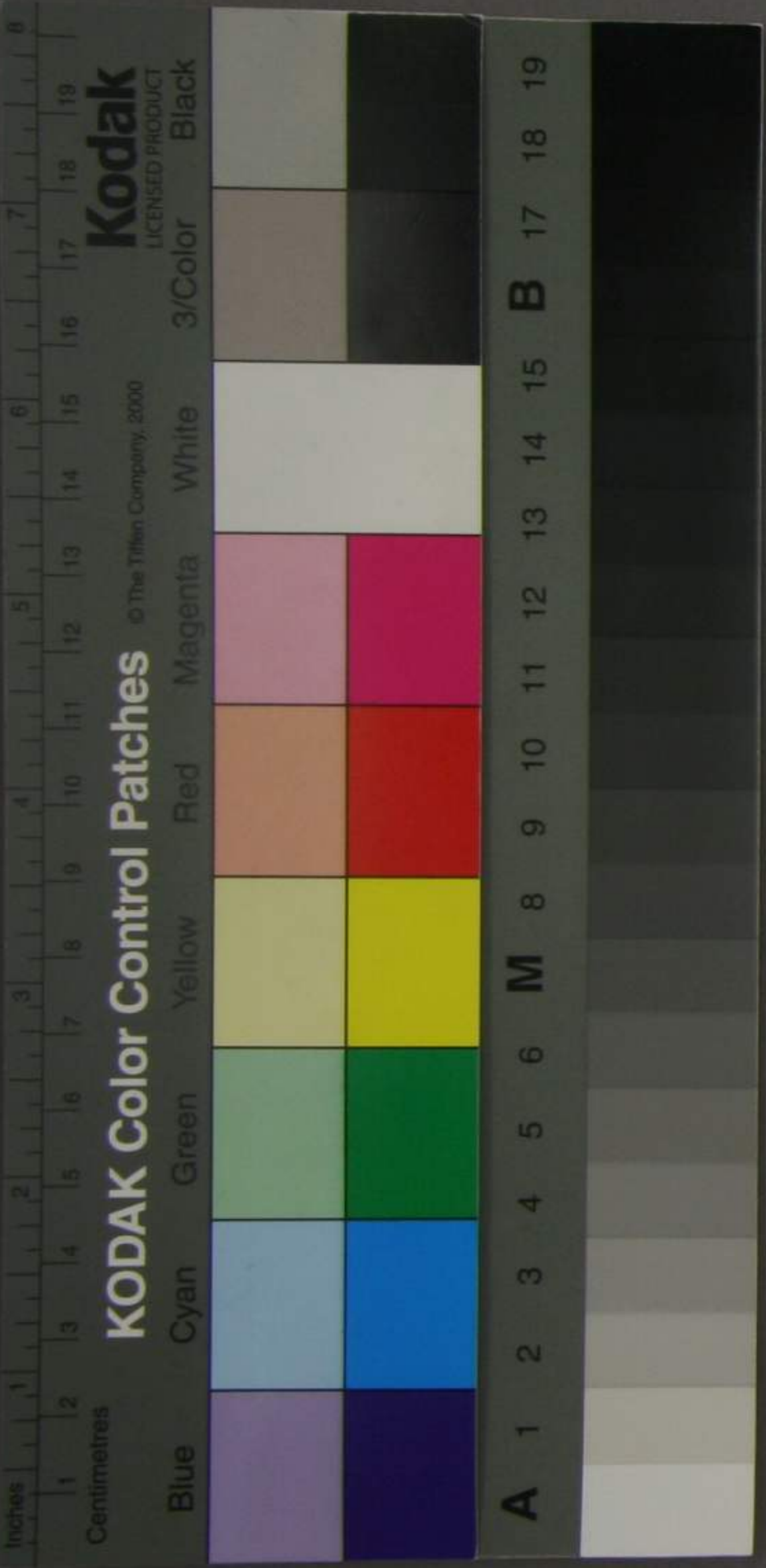
議案第八號 (起草委員提出)

一葉煙草專賣局ヲ置ク事

スルモノナルヲ以テ現今ノ如ク普通行政機關ノ一部ニ屬セシムルハ不便尠カラサルノミナラス國庫收入ノ增加ヲ謀ルカ為メニハ別ニ一箇ノ作業局ヲ設置シ具事業ヲ統一シ處務ヲ敏活ニスルノ必要アルヲ信ス

起草委員

明治三十一年十月七日



参照

葉煙草專賣局官制

第一條 葉煙草專賣局、東京に置キ大蔵

大臣、管理ニ属シ葉煙草、検査收納保

存賣渡及輸出入ニ関スル事務ヲ掌ル

第二條 葉煙草專賣局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人 勅任又ニ奏任

監理官 二人 奏任

鑑定官 二人 奏任

技師 一人 奏任

事務官 六十二人 奏任又ニ判任

属 千五百五十人 判任

鑑定官補 三人 判任

技手 五百四十人 判任

第三條 局長、大蔵大臣、指揮監督ヲ承ケ

局中一切ノ事務ヲ掌理シ葉煙草專賣

事務ヲ統轄ス

第四條 監理官、局長、指揮監督ヲ承ケ

局務ヲ掌ル

第五條 鑑定官、局長、指揮監督ヲ承ケ

葉煙草ノ鑑定保存ニ関スル事務ヲ掌ル
 第六條 技師、局長、指揮監督ヲ承ケ造
 營物、建築及保存ノ事務ヲ掌ル
 第七條 属、上官、指揮ヲ承ケ葉煙草ノ
 檢査出納若クハ庶務ニ従事ス
 第八條 鑑定官補、上官、指揮ヲ承ケ鑑
 定官ノ事務ヲ佐ク
 第九條 技手、上官、指揮ヲ承ケ葉煙草ノ
 鑑定保存又ハ造營物、建築及保存ニ
 従事ス

第十條 地方ニ葉煙草專賣所ヲ置キ葉煙
 草專賣局ノ事務ヲ分掌セシム
 第十一條 葉煙草專賣所管内必要ノ地方
 ニハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ葉煙草專
 賣所ノ出張所ヲ置ク
 第十二條 葉煙草專賣所ニ所長ヲ置キ事
 務官ヲ以テ之ニ補ス
 第十三條 葉煙草專賣所長ハ葉煙草
 專賣局長、指揮監督ヲ承ケ葉煙草
 ノ檢査收納保存賣渡及輸出入ニ関スル

事務ヲ分掌ス

第十四條 葉煙草專賣所ノ名稱位置別
表ニ依ル其ノ管轄區域ハ大藏大臣ニ定
ム

議案第九號 (起草委員提出)

一會計検査院検査官及行政裁判所長

官評定官懲戒法制定ノ件

右ノ兩官衙ニ懲戒法アラサルカ為メ往々
不都合ヲ生スルニ至ル故ニ左ノ要旨ニ基キ之
ヲ制定スルノ必要ヲ認ム

一同僚裁判ハ弊害アルガ故別ニ懲戒裁判
所ヲ設ケル事

二懲戒裁判所ハ之ヲ大審院ニ置キ左ノ職
員ヲ以テ組織スルコト

大審院長	二人
大審院判事	二人
法制局參事官	二人
會計検査院検査官	二人
行政裁判所評定官	二人

明治三十年十月七日 起草委員

(参照)
會計検査院検査官及行政裁判所長官評定
官懲戒法草案

第一章 總則

第一條 凡ソ會計検査官及行政裁判所長
官評定官ヲ懲戒スルハ左ノ場合ニ於テ臨時
懲戒裁判所ノ裁判ヲ以テスヘシ
第一職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ

怠リタルトキ

第二官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲

アリタルトキ

第二條 懲罰ハ左ノ如シ

第一 譴責

第二 減俸

第三 免職

第三條 前條何レノ懲罰ヲ適用スヘキヤ否ハ所

犯ノ輕重ニ從ヒ懲戒裁判所之ヲ定ムヘシ

懲戒裁判所ハ懲罰ノ適用ヲ定ムルニ當リ平

生ノ行狀ヲ斟酌スルコトヲ得

懲戒裁判所ハ第一審ヲ以テ終審トス

第四條 減俸ハ一月以上一年以下年俸月割三

分ノ一以内ヲ減ス

第五條 免職ノ言渡ヲ受ケタル者ハ現任ノ官

ヲ失ヒ及恩給ヲ受クルノ權ヲ失フ

第二章 懲戒裁判所

第六條 懲戒裁判所ハ大審院ニ置キ左ノ人真

ヲ以テ組織シ大審院長ヲ以テ裁判長トス

大審院長

法制局參事官

大審院判事

二員

二員

行政裁判所評定官 二員
會計検査院検査官 二員

第七條 懲戒裁判所ハ、檢事總長ノ申立ニ依

リ内閣總理大臣ニ於テ其ノ裁判長及裁判官ヲ任命シテ之ヲ構成ス

懲戒ハ會計検査院長若クハ検査官三名以上ノ

連署又ハ行政裁判所長官若クハ評定官三名以上ノ

連署アルトキハ之ヲ檢事總長ニ告訴スルコトヲ得

第八條 懲戒裁判官ノ忌避回避ニ付テハ治罪

法ノ規定ヲ準用ス

第九條 懲戒裁判所ハ事件終了毎ニ之

ヲ解ク

第三章 裁判手續

第十條 懲戒裁判開始ノ決定及ニ具

判決決定ハ懲戒裁判官ノ合議過半

數ヲ以テス

第十一條 開始ノ決定ハ懲戒スヘキ所為及

證據ヲ開示シ裁判長ヨリ被告ニ送

達スヘシ

第十二條 懲戒裁判長ハ口頭辯論ノ期日

ヲ定メ被告ヲ呼出スヘシ

第十三條 辯論ハ之ヲ公行セシ

第十四條 口頭辯論ハ開始決定ノ朗讀

ニ始ルモノトス

裁判長ハ先ツ被告ヲ審訊シ次テ證據調

ヲ為シ被告ヲシテ證據ノ結果ニ付辯論

ヲ為シレノ被告ニ最終ノ發言ヲ許スヘ

シ

第十五條 被告ハ他人ヲシテ辯護セシメ又

ハ代理人ヲ用ヰルコトヲ得

第十六條 懲戒裁判長ハ事件ノ辯論既ニ

十分ナリトスルトキハ之ヲ終結シ評議決

定スヘシ

第十七條 評議決定ノ上ハ主文及ヒ具理由

顛末ヲ書記シ之ヲ被告ニ言渡シ同時ニ

内閣総理大臣ニ之ヲ報告スヘシ

但減俸ノ懲罰ヲ言渡シタル場合ニ於テ

ハ會計検査院若クハ行政裁判所ニ

ヲ通告スヘシ

第十八條 懲戒スヘキ所為ハ本法實施前ニ

関スルモノト雖モ本法ニ従ヒ之ヲ訴追ス

明治三十年十月七日 起草委員

議案第十號 (起草委員提出)

一 帝國議會ノ會期改定ノ件

一 會計年度改定ノ件

現行法ニ依レハ帝國議會ノ開會期ハ

年末歳首ニ跨リ不便實ニ少ナシトセズ故

ニ左ノ如ク之ヲ改定スルヲ可トス會計年

度ノ改定ハ前段改定ノ結果トシテ自然

ニ起ルモノナリ

一 帝國議會ノ通常會ハ毎年二月ヨリ六月ニ至ルノ五ヶ月間ニ於テ之

ヲ開閉スルコト

但シ第十二回議會ヨリ右ノ如ク改ムルコト

一、會計年度ハ七月初日ニ始メ六月末日ニ終ルコト

但シ明治三十二年度ヨリ之ヲ實施シ三十二年四月ヨリ六月ニ至ル三月間ノ經費ハ三十一年度ノ追加豫算トシ臨時會若クハ第十二回議會ノ初ニ於テ其協賛ヲ求ムルコト

明治三十年十月七日

起草委員

議案第十一號(起草委員提出)

一、工部省設置ノ件

二十七年戦勝ノ結果トシテ社會万般ノ進歩ヲ促シ事務頗ル繁雜ニ赴キタルニ依リ之ニ應ジテ行政機關ヲ整備スルノ必要アリ然ルニ從來ハ各省各別ニ同一事業ヲ管理シ之カ爲メ冗費冗費ヲ要スルノミナラス亦事業ノ統一ヲ欠クノ弊アルヲ免レス故ニ今ヤ各省ニ散在スル土木、鉄道、建築、及林野ニ関スル事務

ヲ一括シテ工部省ノ管理ニ歸セシメントス

工部省官制要領

一工部大臣ノ管理スル事務

現今内務省土木局擔當事務

現今逓信省鑄造監理局擔當事務

右省ニ散在セル建築事務但陸海軍兩省ノ分ヲ除ク

現今農商務省山林局擔當事務

一工部大臣ニ隸屬スル官衙

鑄造作業局

土木局

土木監督署

干任製絨所

鑄造會議

河川道路港灣調査會

東京市區改正委員會

臨時葉煙草取扱所建築部

大小林区署

製鑄所

明治三十年十月分 赴身委員

(参照)

工部省官制案

第一條 工部大臣ハ土木、鐵道、建築

及林野ニ関スル事務ヲ管理ス

第二條 工部省專任參事官ハ四人專

任書記官ハ五人ヲ以テ定員トス

第三條 工部省ニ左ノ四局ヲ置ク

土木局
鐵道局
建築局

山林局

第四條 土木局長、鐵道局長、建築局

長及山林局長、勅任トス

第五條 土木局、於テハ土木工事、工費、

調査及水面埋立ニ関スル事務ヲ

掌ル

第六條 鐵道局、於テハ鐵道ノ監督及

私設鐵道ノ免許ニ関スル事務ヲ

掌ル

第七條 建築局、於テハ諸官衙、學校、

建築工事及其ノ監督ニ関スル事務

ヲ掌ル

第八條 山林局、於テハ森林原野ニ関

スル事務ヲ掌ル

第九條 工部省ニ專任技監三人ヲ置キ

土木局、鐵道局、建築局ニ屬シ各技

術官ヲ指揮監督シテ其ノ事務ヲ掌

理ス

第十條 山林局ニ森林監督官一人ヲ置

ク奏任トス森林ノ監督事務ヲ分

壹年ス

第十一條

工部省ニ專任技師十七人ヲ置ク

第十二條

工部省屬ハ七十人ヲ以テ定員

トス

第十三條

工部省專任技師ハ四十五人ヲ以テ

定員トス